□書　評□

「大腸疾患アトラス」

〔著〕
長廻　紘（東京女子医科大学消化器内科）
竹本忠良（東京女子医科大学教授）

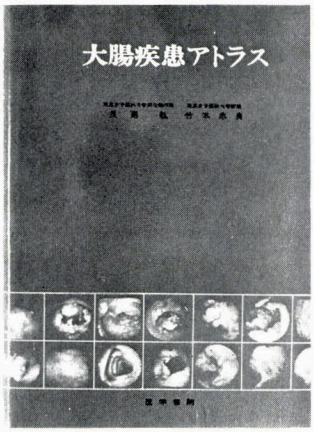
順天堂大学教授
白壁彦夫

よい本がでたものである．面白い．一気に読了できた．大腸疾患についての総合検査所見のアトラスという形をとっている．今までにみたような，単にX線検査とか，内視鏡検査だけ，というものではない．しかし，何といっても，ファイバースコープによるカラー写真と，生検組織，組織切片の写真との対比が見事である．その解説も，欧米の直訳ではない．経験に基づいた著者の主張と決断で筋が通っている．丁寧で要領よい解説である．

内視鏡検査の実技，方法についてもわかりやすく書かれている．これから内視鏡を行なおうとする人には欠かせない．挿入法は，今まで相当に経験を積んだ人でも，しばしば困難を感じるところである．ここを理論的に，腸管の走行の違いを十分に考慮し，case by case について，そのコツが書かれている．理論派である著者の経験と熟練の深さがしのばれる．偶発症や禁忌に対しても，慎重すぎるくらいにきびしく警告している．しかし，誇張が少しもない記述である．

X線検査との関係，直腸鏡の有用性についても，まさに客観的に書かれていて，ファイバースコープだけをもって，事足れりとはしていない．公正な人柄と卓見に，あらためて敬意を表したい．

くり返して，次のことを強調したい．



ファイバースコープを行なうにいたるまでの適応から，ファイバースコープの手技，観察方法，生検，ポリペクトミーの方法，すなわち，適応から方法論までが，明解かつ詳細に書かれていて余すところがない．

欧米学派から脱脚した著者の見解が，随所に挿入されている．そこには著者の一貫した思想がある．われわれが，今まで待望してやまなかった臨床病理のすぐれた知識と造詣の深さがここにある．これだけのスペースの中に，よくも内外の主要な文献を十分に，また，無駄なくとり込んでまとめあげたものである．著者の文筆の才のお蔭で，なお十分に解明されていない大腸疾患を，誰もが問題点の指摘にうなずきながら，素直に理解することができる．

症例の各項目は，代表的な症例から珍らしい例まで，きれいに配列されていて重複がない．また，各疾患の定義や意義づけも斬新なタッチである．病理組織所見に基づいた記述だから，説明も明快である．

本書は，初心者から専門家に至るまで，読まなくてはならない本だと思う．待望していた好著である．本書を読了して，すぐ思ったのは，Hafter, E 著の Praktische Gastroenterologie である．この消化器の内科書には Hafter 流の明快さがある．同じようなさわやかさを本書から感じる．経過や治療のことも簡明に書かれている．まさに，大腸の内科書でもある．

B5 頁202 図114 写真143 原色図107 ¥13,000 〒240 医学書院刊

●主要内容

I. 大腸診断法（X線と内視鏡の関係）
II. 大腸X線検査法　単純撮影法　経口検査法　注腸法（充えい法・粘膜法・二重造影法）**III. 大腸内視鏡検査法**　内視鏡検査の目的，適応と禁忌（目的・適応と禁忌）内視鏡検査の実際（準備・内視鏡の器具・前処置・内視鏡の挿入手技・写真撮影，内視鏡所見の記載・内視鏡検査後の処置）大腸の生検（生検の目的・禁忌・生検盲点・後処置）ポリペクトミー（適応・使用器械・方法・禁忌）
症例
正常像　潰瘍性大腸炎　診断　内視鏡検査（内視鏡検査の意義・内視鏡分類・潰瘍と炎症性ポリープ・癌化の問題と内視鏡）病理組織像—生検　経過，治療　**Crohn病**　診断　内視鏡　病理組織像　鑑別診断　経過，治療　**腸結核**　診断　内視鏡検査　病理組織像　鑑別診断　経過，**他**

©IGAKU-SHOIN Ltd, 2012

2026/09/16 22:59:38